

## 令和6年度シラバス（地理歴史）

学番中等3 新潟県立燕中等教育学校

教科(科目)	地理歴史(地理総合)	単位数	2単位	学年(コース)	4学年
使用教科書	帝国書院『新地理総合』 帝国書院『新詳高等地図』				
副教材等	帝国書院『新詳地理資料COMPLETE』 帝国書院『新地理総合ノート』 二宮書店『データブック・オブ・ザ・ワールド』				

### 1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<ul style="list-style-type: none"> <li>①高い学力・幅広い教養・学び続ける姿勢を身に付け、グローバル（地域的・地球的）な視野から社会課題を多面的に発見・考察し、その解決に向けて挑戦・行動・発信する能力を育成します。</li> <li>②高い倫理観、他者を思いやる心、傾聴する姿勢、豊かなソーシャル・スキルを持った人物を育成します。</li> <li>③リーダーシップ・フォロワーシップを身に付け、地域社会・国際社会と協働する態度を育成します。</li> </ul>
カリキュラム・ポリシー	<ul style="list-style-type: none"> <li>①中高一貫教育を生かし、高い学力と学び続ける姿勢を身に付ける教育課程を編成するとともに、すべての教科・科目において「深い学び」を実現します。</li> <li>②読書、新聞・図書室の活用を奨励するとともに、体験活動を取り入れた教育課程により、幅広い教養を育みます。また、探究の過程を重視するとともに、最新の教育方法を積極的に活用します。</li> <li>③4技能をバランスよく育成する英語授業を実践するとともに、「生きた英語」を学習する機会としての海外研修やさまざまな発表活動に取り組みます。また、積極的に国際交流活動にも取り組んでいきます。</li> <li>④アイデンティティを形成しつつ地域理解を深め、地球的視野で自分なりの社会課題を発見し、科学的な手法を用いてその解決を目指す課題研究を6年間通じて実施します。</li> <li>⑤6年間一貫した方針による道徳や人権教育等を実施するとともに、生徒会活動、部活動、課外活動を通して、主体的・自律的に考え行動し、互いに支え、高め合いながら協働的に活動することを重視します。</li> </ul>

### 2 学習目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。

### 3 指導の重点

- ①身近な地域や自分自身の生活と関連付け、世界の諸地域の地理的事象について、意欲的に追究する。
- ②現代世界の諸課題について、系統地理的・地誌的に考察することができる。
- ③地図や統計などの資料を自ら分析し、現代世界の地理的事象について読み取ることができる。
- ④現代世界の国や地域及びそれらの関係性などについての基本事項を理解している。

#### 4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

#### 5 評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・提出物、課題などの内容の確認  などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・提出物、課題などの内容の確認  などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・提出物、課題などの内容の確認 ・授業への参加状況  などから、評価します。
	内容のまとめりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。		

#### 6 学習計画

月	単元名	授業時数	学習活動(指導内容)	評価方法
4	1章 地図と地理情報システム	1	<b>1節 地球上の位置と時差</b> 1 地図上の位置と私たちの生活 2 時差と私たちの生活  ・地球上の位置情報の基礎として、球体としての地球、緯度・経度の基本的なしくみ、地球上での位置の示し方を理解する。 ・経度の違いから時差の概念を捉え、日常生活における時差計算の技能を身に付け、球面として成り立つ世界認識をもつ。	定期考査   定期考査 授業への参加状況 課題・提出物
		3	<b>2節 地図の役割と種類</b> 1 地球儀と地図 2 身の回りの地図 3 統計地図の種類と利用 4 地理情報システム(GIS)の活用  ・身近な地図を集め、それらの地図の特徴を捉え、地図情報の有用性を理解する。 ・地図情報を活用する方法として、紙地図と電子地図としての GIS があることを理解し、地理院地図や地形図を通して認識する。 ・GIS が日常生活にも利用されている事例を捉え、大量の地理情報を処理できる GIS の特徴や利用方法、そのしくみについて理解する。 ・GIS で作成した地図を重ね合わせ、地域の特徴を分析する方法と技能を身に付ける。	定期考査  定期考査 授業への参加状況 課題・提出物  定期考査  定期考査

5	2章 結び付きを深める現代世界	1節 現代世界の国家と領域 1 現代世界の国家 2 日本の位置や領域	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図法によって異なる世界地図の特色を捉え、スケール、視点、図法などを変化させながら、世界における日本の位置を理解する。</li> <li>・グローバルな立場から日本の領域を理解するために、国境や国家の領域の世界的な基準を捉えながら、日本が抱える周辺諸国間との領有権の問題や海洋資源の利用について考える。</li> </ul>	<p>定期考査</p> <p>定期考査 授業への参加状況 課題・提出物</p>
		2節 グローバル化する世界 1 国家間の結び付き 2 貿易によって結び付く世界 3 さまざまな交通網の発達 4 世界を結ぶ通信網の発達 5 観光のグローバル化	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル化が進む世界において、国家間の協調や不均衡を理解するために、世界の実態を捉えるための道具としての統計地図やグラフのつくり方を理解する。</li> <li>・交通・通信、貿易・物流、観光の視点から、人やもの、情報、資本・サービスの移動のようすについて、統計地図やグラフなどの資料から読み取る技能を身に付ける。</li> <li>・グローバルな視点から持続可能な社会の形成のために、資料を根拠として示しながら課題解決のための方策を多面的・多角的に考える。</li> </ul>	<p>定期考査</p> <p>定期考査</p> <p>定期考査 授業への参加状況 課題・提出物</p>
6	1章 生活文化の多様性と国際理解	序説 生活文化の多様性 1 生活文化を考察する方法 1節 世界の地形と人々の生活 1 大地形と人々の生活 2 変動帯と人々の生活 3 安定地域と人々の生活 4 河川がつくる地形と人々の生活 5 海岸の地形と人々の生活 6 氷河地形・乾燥地形・カルスト地形と人々の生活	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活文化を考察する方法、国際理解の重要性について理解する。</li> <li>・世界の大地形の広がりやプレートテクトニクスにもとづくプレート境界と関連し、変動帯に位置する場所では山岳地域や高原を形成し、地震あるいは場所によって火山を伴うことを理解する。</li> <li>・河川、海岸などの外的営力による地形の形成とその広がり、およびそれらの地形と対応した人々の生活と地形を取り巻く環境の変化について、写真や地形図などの資料を通して考える。</li> </ul>	<p>定期考査</p> <p>定期考査</p> <p>定期考査 授業への参加状況 課題・提出物</p>
		2節 世界の気候と人々の生活 1 気温・降水と人々の生活 2 大気大循環と人々の生活 3 世界の植生と気候区分 4 熱帯の生活 5 乾燥帯の生活 6 温帯の生活 7 亜寒帯・寒帯の生活	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界的な視野から大気や海流が循環するしくみを捉え、地球上ではそれらの影響を反映した気候の地域性が生まれていることを理解する。</li> <li>・降水量と気温の特徴をふまえながら世界の気候をケッペンの気候区分から捉え、植生や農業などの人々の生活文化に多様な影響を与えていることを理解する。</li> </ul>	<p>定期考査</p>
		-オセアニア- 1 人々をひきつける多様な自然環境 2 自然環境を生かした産業と人々の生活	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱帯、乾燥帯、温帯、亜寒帯、寒帯の各気候は人々の生活文化とどのような関わりをもつのか、どのような生活の工夫があ</li> </ul>	<p>定期考査</p> <p>授業への参加状況</p>

7	<b>-東南アジア-</b> 1 モンスーンの影響を受けてきた 人々の生活 2 気候を生かした農業と人々の生活	2	るのか、写真や雨温図などの資料から考える。	課題・提出物
	<b>3節 世界の言語・宗教と人々の生活</b> 1 世界の言語と人々の生活文化 2 世界の宗教と人々の生活文化	2	・世界でみられる生活文化の多様性について、宗教、言語の分布や人々との関わりを主題図や写真などの資料を通じて理解するとともに分布を示す要因について理解する。 ・世界の少数民族、移民、難民の問題を捉えながら、マイノリティなどをふまえた多様な人々に配慮し、自他の文化を尊重する社会の実現を考える。	定期考査
8	<b>-中央・西アジア、北アフリカ-</b> 1 イスラームを中心とした生活文化 2 乾燥地域で暮らすムスリムの生活文化 3 変化するムスリムの生活	2		定期考査 授業への参加状況
	<b>-インド-</b> 1 インドの歩みとヒンドゥー教 2 宗教や自然環境の影響を受ける インドの食生活 3 変化するヒンドゥー教徒の生活	2	課題・提出物	
9	<b>4節 歴史的背景と人々の生活</b> 1 歴史的背景が人々の生活に与える影響 <b>-ラテンアメリカ-</b> 1 ヨーロッパ社会の影響が強い文化 2 大土地所有制が生み出した社会構造 3 外国資本による工業化と生活の変化	2	・生活文化に影響した歴史的背景、冷戦時代の体制が生活に与える影響について理解する。 ・生活文化に影響した歴史的背景、冷戦時代の体制が生活に与える影響について、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・生活文化に影響した歴史的背景、冷戦時代の体制が生活に与える影響について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	定期考査
	<b>-サハラ以南アフリカ-</b> 1 生活文化に残る旧宗主国の影響 2 植民地支配の影響が残る アフリカの産業 3 人々の生活の変化と経済成長への 取り組み	2		定期考査 授業への参加状況 課題・提出物
10	<b>-ロシア-</b> 1 国家体制の変化が人々の生活に 与えた影響 2 変化するロシアの産業	2		
	<b>5節 世界の産業と人々の生活</b> 1 人々の生活を支える農業の発展 2 人々の生活を支える工業の発展 3 グローバル化する現代の産業と 人々の生活	3	・世界の生活文化が各地域の環境に基づいて発達する産業を基盤に成り立つ現状を捉え、世界スケールにおける第1次産業、第2次産業、第3次産業の地域的な特徴をグローバル化の観点で理解する。 ・産業の発達と生活文化がどのようにかわるのか、産業はどのように変化してきているのか、主題図などの資料を通じて理解を深める。	定期考査
<b>-アメリカ合衆国-</b> 1 世界に大きな影響力をもつ 知識産業と資源 2 世界の食卓に影響を与える農業 3 産業の発展を支えてきた移民の力	3	定期考査 授業への参加状況 課題・提出物		
11	<b>-東アジア-</b> 1 東アジアの経済成長とその歩み 2 経済成長による中国の生活の変化 3 経済成長による韓国の生活の変化	3		
	<b>-ヨーロッパ-</b> 1 EU統合と人々の生活 2 EU統合による農業への影響 3 EU統合による工業や社会への影響	3		

12	2章 地球的課題と国際協力	1節 複雑に絡み合う地球的課題 1 相互に関連する地球的課題とその解決に向けて	3	・持続可能な地球社会を考えるうえで、地球規模で起きている環境問題は、一国だけで対応できるものではないこと、多面的・多角的に考えていくことが必要であること、自らとかわる問題であることをSDGsをふまえて認識する。 ・深刻な地球環境問題を生じている大気汚染、森林減少、砂漠化、気候変動について事例をあげて捉え、それぞれの影響と将来の予測から解決の取り組みについて考える。	定期考査  定期考査 授業への参加状況 課題・提出物
		3節 資源・エネルギー問題 1 世界のエネルギー・鉱産資源 2 エネルギー利用の現状と課題 3 地域で異なるエネルギー問題への取組	3	・地球規模で起こる資源の問題について主題図などの資料をもとに考え、偏在して分布することで保有国と非保有国との間に格差があることを認識する。 ・エネルギー資源の変化を捉えながら資源の大量消費によって枯渇の恐れがあることを認識し、これらの解決のための取り組みをSDGsと関連づけて考える。	定期考査  定期考査 授業への参加状況 課題・提出物
		4節 人口問題 1 世界の人口 2 発展途上国と先進国の人口問題 3 地域で異なる人口問題への取り組み	3	・人口が急増している世界の現状を捉えるとともに、人口ピラミッドや相関図などの資料から人口問題の構造と地域差を捉え、人口問題の背景や問題点を整理する。	定期考査
		5節 食料問題 1 飢餓と飽食 2 地域で異なる食料問題への取り組み	2	・持続可能な社会をつくるために、飢餓とその要因である人口問題、食料問題について、主題図やグラフなどの資料を集め、グローバル、ローカルのそれぞれ異なる視点から根拠をもとにSDGsと関連づけ対応策を構想する。	定期考査 授業への参加状況 課題・提出物
		6節 都市・居住問題 1 世界の都市の発達 2 発展途上国と先進国の都市・居住問題 3 地域で異なる都市・居住問題への取り組み	3	・世界では都市に人口が集まる現象がみられることを主題図やグラフから読み取り、人口が集まる都市内部の構造を景観をふまえ理解する。 ・途上国の大都市を中心に人口集中に伴う問題が生じていることを捉え、問題の要因を理解しながら、都市の問題の改善を目指した都市計画を取り上げ、SDGsと関連づけ都市問題の解決策を考える。	定期考査  定期考査 授業への参加状況 課題・提出物
		2	1章 自然環境と防災	1節 日本の自然環境 1 日本の地形 2 日本の気候	1
2節 地震・津波と防災 1 地震・津波による災害 2 地震・津波の被災地の取り組み	2				
3節 火山災害と防災 1 火山の恵みと災害 2 火山と共生する地域の取り組み	2			・日本各地では毎年のように様々な自然災害が起きていることを理解するため、風水害、火山、地震・津波、都市型の災害の	定期考査

3	4節 気象災害と防災 1 さまざまな気象災害 2 気象災害への取り組み	2	具体的な事例について、新旧の地形図、ハザードマップ、気象情報、電子地図などを利用する技能とともに捉える。	定期考査 授業への参加状況 課題・提出物
	5節 自然災害への備え 1 減災の取り組み 2 被災地への支援	2	・自然災害はどのような自然環境と関係しているのか、それに対する備えはどうか、それによれば良いのか考え、居住地域での防災・減災意識の向上につなげる。	
2章 生活圏の調査と地域の展望	1節 生活圏の調査と地域の展望 1 地理的な課題と地域調査 2 現地調査の準備 3 現地調査の実施 4 調査の分析と発表	2	・日本が抱える地域的な課題について、身近な地域を例に取り上げ、人口の少子高齢化、過疎化について景観観察や聞き取りを通じた調査の技能を身に付ける。 ・現地調査と統計資料によって得られた結果を主題図などにまとめ、他地域と比較して考察する技能を身に付ける。 ・調査結果をもとに、地域の活性化に向けたまちづくりのプランを発表する。	定期考査  定期考査  授業への取組 課題・提出物

計 70 時間 (50 分授業)

## 7 課題・提出物等

- ・週末課題として、その週に学習した内容を「新地理総合ノート」や「地形図・白地図ワーク」等で復習。週明けに提出。
- ・夏休み課題、冬休み課題は別途指示します（「新地理総合ノート」「地形図・白地図ワーク」等）。

## 8 担当者からの一言

地理は、「地上の理（ことわり）」のことを指します。地球上の出来事・人間の営みすべてのことを総括して「地理」というのです。つまりは、すべての学問の「入り」になるような構成要素を網羅的に学べる科目なのです。気候や土地・農業に工業・人口に都市経済など、これらはすべて、学問の基礎になる「常識」となるのです。

地球上の出来事・人間の営みに対して、「なぜそうなるのか?」「どうしてそのようなことが起こるのか?」といった背景を考えながら学習することが必要です。単なる暗記科目ではありません。このような学習を続けていくことで、国際社会で生き抜くための人間力を身に付けることができます。

このように地理は面白く、実生活に役立ち、人生を豊かにしてくれる学問です。1年生の社会（地理的分野）の学習を土台に、楽しく学習しましょう。

(担当：長岡 大)